北上の清水（すず）を歩く

市内には「すず」と呼ばれるわき水が多く存在します。
すずは昔から地域の人々の生活を支え、今でも暮らしの一部となっています。
また周りに植物が生い茂り、水生生物のすみかでもあることから、自然保護、景観形成の側面も持っています。
水の大切さを感じながら自然の涼を味わいに、すずへ出掛けてみませんか。

長清水（ながすず）(和賀町藤根)

長清水は「新渡戸観音泉（にとべかんのんすず）」(下江釣子)と共に「いわての名水二十選」に選定(昭和60年・岩手県認定)されました。わき出る水量が多く、昔からどんな日照りの年でも枯れたことはないといわれています。また、この水を灌漑（かんがい）用として細長い堤が江釣子まで引かれていたことから「長清水」と地名が付けられたとか。

上流で飲み水がくまれ、下流で野菜などの洗い物をするというように使い分けられています。

市内のすずは約２００カ所

「すず」の由来には、清水(しみず)が変化して「すず」になったという説があります。

市内のすずは、和賀川沿いに右岸と左岸の両方で見られ、右岸は和賀町山口から相去町まで、左岸は和賀町藤根から黒沢尻まで続いています。また、北上東部にも点在します。市立博物館の調査では、２００近いすずがあることが分かっています。

市内にすずが多い理由は、北上市の地形によります。北上川、和賀川、尻平川、夏油川などによって造られた扇状地や河岸段丘から、数多くの地下水がわき出しています。また、北上川東岸には水を通しにくい不透水層(稲瀬火山岩類)が広く分布し、その上にたまった水が至る所からわき出ています。

地下水であるすずは、土壌に浸透していく中で不純物などがろ過されるため水質が良く、水温はほぼ一定で夏は冷たく冬は温かいという特徴があります。市が昨年実施したわき水11地点の水質調査では、水温は12～16度でした。冬には水面に湯気が立つほどです。

生活に溶け込むすず

すずは昔から、飲み水や洗い場など地域共有の水場として使用されてきました。市立博物館がまとめた『北上の清水物語』(平成20年)によると、朝は飲み水をくみ、次に洗い物というように、時間帯を決めて使っていたようです。今では水場としての役割は減りましたが、「カド」と呼ばれる洗い場は、野菜や農具を洗う場として使われています。

また、水量が豊富なすずは、セリ栽培のほかに豆腐・酒造り、染め物などの仕事を生み出してきました。当時は農村が栽培した麻を布に織り、それを染物店があい染めにして繁盛していたとのこと。その布染め作業には大量の水が必要で、すずも使われていました。

＊

上水道が整備され、蛇口をひねれば簡単に水を使うことができる時代ですが、今でも炊事用や飲料水として愛用されるすずがあります。和賀町藤根にある「長清水」(前ページ写真)がその一つ。米やお茶にと、ポリタンクやペットボトルを持った人が次々とやってきます。中には孫のミルクにという人も。ガソリン代をかけてでも来るそうです。

川岸から通う八重樫恭治さんと淳子さんは、コーヒーに使用。「水道水もいいのだけれど、やっぱり味が違いますね。自然も気持ちいい」と感謝していました。

近所に住む髙橋ハナさんは、長年すずを清掃してきた住民の一人。「たくさんの人が水をくみに来るので、きれいにしなければ」と週2・3回通って掃除に精を出しています。

【注意】すずは自然のおいしい水として昔から飲み水に使用されてきましたが、大腸菌群や一般細菌が検出されることもあるため、煮沸するなどの注意が必要な場合があります。

すずにまつわる伝説・伝承

こんこんとわき出るすずは神秘的でもあり、神聖な場所ともされています。水のある場所には水神様が宿るという信仰のもと、ほこらを建て、まつっているのです。また、薬効があると伝えられるすずや、伝説・伝承が語り継がれるすずもあります。

帰帆場公園(幸町)の南約70メートルの所に「和野浮島」があります。豊富なわき水に恵まれていた和野は、江戸時代からセリ栽培が盛んな場所でした。その和野には、次のような伝説が伝えられています。

『和野の浮島伝説』

和野には、源義経が東下りする際の側近、片岡八郎経春が逃げ隠れ、館を建てて住んだ田中浮島屋敷があった。ある年のお盆のくだんの日、旅から旅へと仏を拝んでまわって歩く六部が田中浮島の家に来て、家の中に入って仏様を拝んだ後、主人に何か食べ物を報謝してくれと頼んだ。主人が炊きたての赤飯を差し上げると六部はおいしそうに何杯もお代わりをし、あっという間におひつ一つをたいらげてしまった。

六部は主人に向かってお礼し「今、この家に来るときにお宅の若者たちが大きなウナギをつかまえて料理し

▶カドと呼ばれる洗い場。近所の人が手や長靴を洗いに来ていた

▲和野の浮島。昔、北上川が洪水をおこしても、この場所だけは沈まずに浮いていたことから名付けられたという

◀幸町の帰帆場公園。この辺りはかつて一面セリ田だった

体験！すず巡り講座

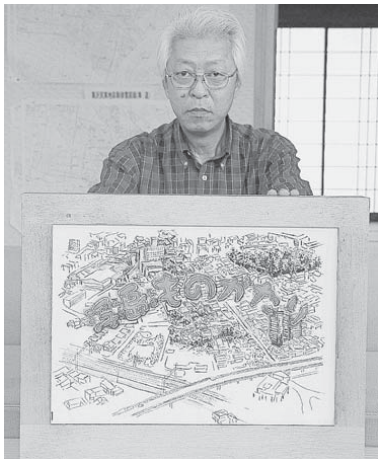
6月3日に行われた、藤根地区交流センター主催「東北自然歩道を歩き、すずを巡ろう」に市広報担当も参加。飯島のすずからカムイヘチリコホまでの5kmを歩きました。市立博物館研究員佐竹邦彦さんの解説を聞きながら足を進め、すずの見どころを再発見することができました。

ようとしていました。もしあのウナギを殺すような事があれば、この家も日ならずして滅びてしまうでしょう。早く行って止めさせなさい」と言うやいなやその家を立ち去った。

主人は急いで向かったが、ウナギはすでに若者に殺され、腹からは六部に食べさせた赤飯が出てきた。それから後、ウナギの供養をし神仏の加護を祈ったが、災難に見舞われ、屋敷も見る影もなくなってしまった。

今も片岡一族の末孫は正月と盆の16日はウナギはもちろん、酒ともちをロにしない家が多いといわれる。

（「北上の清水物語」より）



◀黒沢尻東地区自治協議会は、地域の伝説を題材にした手作りの紙芝居発表会を3年前から開催。「浮島ものがたり」は初回で披露された。紙芝居は黒沢尻東地区交流センターと中央図書館で貸し出されている

このほか、すずにまつわる伝説・伝承は30カ所に残されており、市立博物館では12の伝説・伝承を「きたかみすずめぐり」として取りまとめています。

※パンフレットは市内図書館で貸し出しするほか、博物館で販売しています。

＊

すずにまつわる伝説・伝承の中には、神社やお堂の由来に関するものもあります。先人は命の水を守るため、信仰により水神様をまつってきました。すずを訪ね歩くと、近くに神社やほこらを見かけます。

和賀町岩崎の田が広がる一角で、林の茂みをかき分けて入っていくと「弥十郎清水」が姿を現します。ここでは、水がわき出る所に「水神」と大きく彫られた石碑が置かれています。

鬼柳町の六軒では、六軒のすずが豊富な水量で集落の生活用水を満たしています。どうどうと水路を流れるすずの上の森には、水神様をまつるほこらが静かに立っています。

水は古くから人の生活に欠かせないものでした。その根源となるすずも大切にされてきたことがうかがえます。

地域づくりに活用されるすず

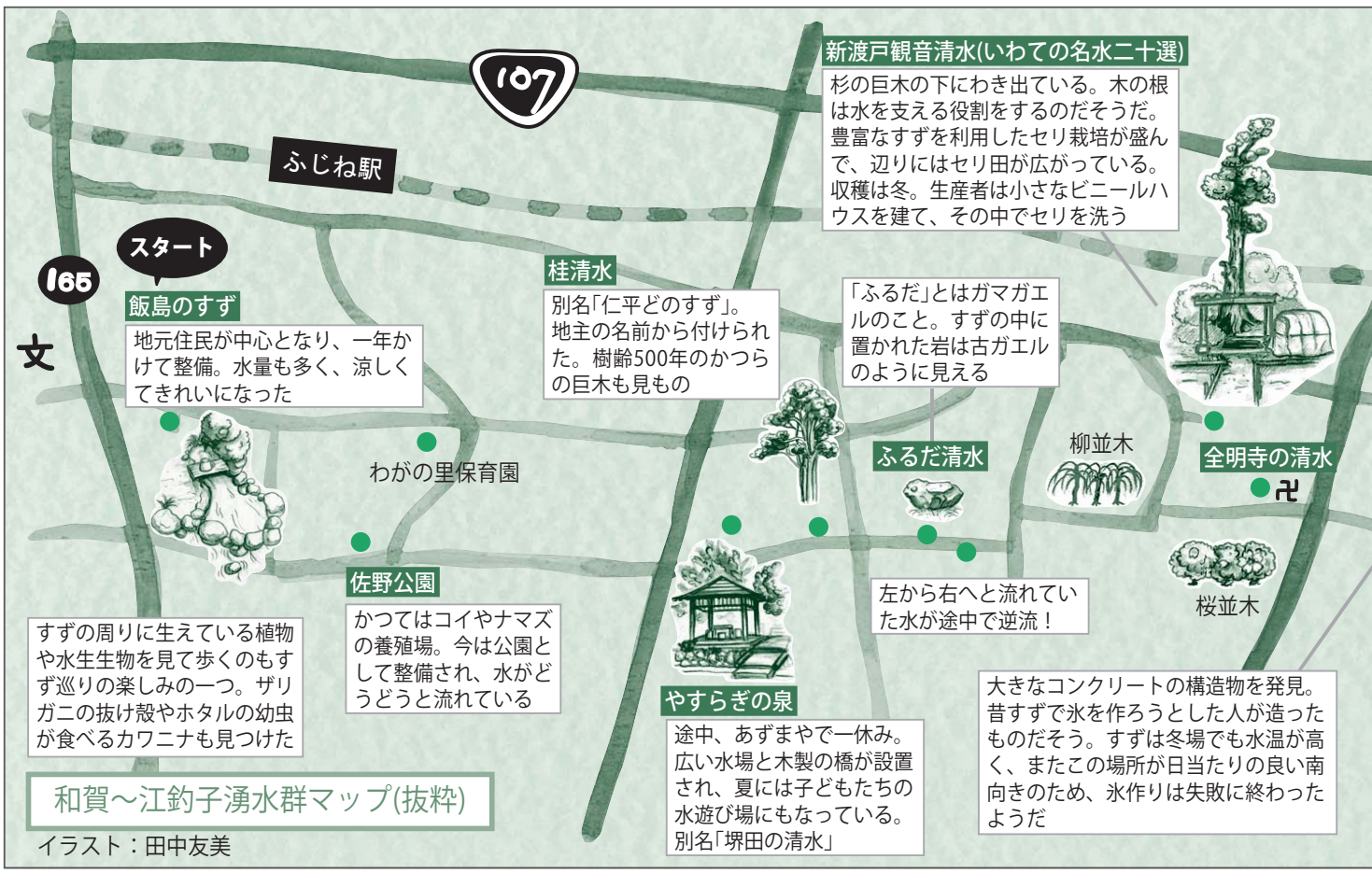
生活用水としての役割は薄れてきているすずですが、地域の貴重な資源として積極的に活用しようと、NPOや地区住民などが活動しています。

平成19年に設立したNPO法人わが

▲すず周辺の枯れ木をかき集めるNPO法人わが流域環境ネットのメンバー

▲六軒のすずにまつられるほこら。この下に豊富な水量のすずが流れる

▶弥十郎清水の水神。後部には『清水ここにあり』という字が読める



和賀～江釣子湧水群マップ(抜粋)
イラスト：田中友美

流域環境ネット(及川一代表)は、環境保全や自然保護に関する活動をしています。すずとその環境を整備する活動もその一つ。これまで、すず巡りやホタル観察を実施してきました。事務局の小田島清さんは「活動することで住民にすずの大切さを再認識してもらい、どのように地域づくりにつなげていくかを投げかけていきたい」と、今後の展開を望みます。

現在進めている『清水(すず)の郷』学・感・伝プロジェクトは、交流センター、NPO、行政などが集まり、すずを通して地域を発見し、水の大切さを認識しようというもの。今後、すずの環境調査や地図作り、フォーラムの開催などを行う予定です。代表の及川さんは「この事業を通して、環境保全の取り組みが地域へ浸透してほしい」と期待していました。

和賀町長沼の農業者、自治会、老人クラブなどで組織する、長沼地域農地・水・環境保全活動実践組織(武田忠志会長)は、「飯島のすず」の環境整備を昨年から本格的に始動。それまで樹木がうっそうと生い茂り足の踏み場もなかったところを、伐採し外来種を駆除、洗い場となるカドを作りました。整備後は風通しが良く、子どもたちの遊び場にもなっています。事務局の武田士郎さんは「面積も広く珍しい植物がある場所。みんなが訪れることができる地域の憩いの場がほしかった。今後は希少植物や水生生物の写真を看板にしたい」と意欲を見せます。

▶飯島のすずを整備する、長沼地域農地・水・環境保全活動実践組織の皆さん

新しく生まれ変わったすずは、地域の財産として子どもたちへ引き継がれるだけでなく、地域のPRにもなり自然保護にもなる。かつてコミュニケーションの場であったように、今また憩いの場として人々の交流が広がる。そんな流れが生まれています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

長清水を取材中、30分程度の滞在にもかかわらず、途切れなく水くみをする人がやってきました。和賀町岩沢の山のふもとにある「羽山口のすず」も水くみが多いと聞きます。一方で、水量が減ってきていることも耳にします。

これからの時季は、すずを散策するには最適の季節。自然の中のすずは、安らぎと心地よさを感じさせてくれます。豊富な水環境の中で暮らしていることに感謝し、いつまでもこの環境が続くことを願わずにはいられません。